

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02170

研究課題名（和文）トラウマインフォームドケアの観点による養育者チームと組織の形成方法に関する研究

研究課題名（英文）A study on how to form a team of caregivers and an organization from the perspective of trauma-informed care

研究代表者

加藤 尚子（KATO, Shoko）

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：00307977

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：職員個人や集団が組織風土から受ける影響をふまえ、職員集団で子どもを養育していくための方策について検討を行った。傷つきを抱えた子どもたちを養育するために必要な職員集団の形成方法および組織への介入方法について、トラウマインフォームドケアに基づき、子どもの適切な養育とともに職員同士を支えあう共同養育チームの形成を念頭においた介入を検討した。具体的には、アメリカのコロラド大学 Boulder校のInstitute of Behavioral Scienceが実施しているトラウマインフォームドケアであるLet's Connectモデルに関する実態調査と介入方法の習得を行い、日本における適用を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義としては、アタッチメントの問題とトラウマを抱えた子どもの養育に必要な要素を把握すると共に、施設職員などの養育者を支え、共同養育を行う職員関係を構築していく必要性に着目した点にある。それを実現する一つの具体的方策として、トラウマインフォームドケアの観点に基づくペアレンティング・プログラムであるLet's Connectプログラムの日本への適用を図った。

研究成果の概要（英文）：We clarified the impact that individual staff members and groups receive from the organizational climate, and at the same time, we examined the nature of the communication and teamwork required when a group of staff members is caring for children. Based on this, we reconfigured organizational climate reform and comprehensive consultation interventions with the aim of forming a collaborative child-rearing team that supports each other as well as providing appropriate child care, with trauma-informed care for the community in mind. Specifically, we conducted a survey on the Let's Connect model of trauma-informed care implemented by the Institute of Behavioral Science at the University of Colorado Boulder, and learned about intervention methods, and considered their application in Japan.

研究分野：福祉臨床心理学

キーワード：トラウマ アタッチメント トラウマインフォームドケア 社会的養護 ペアレンティングプログラム
Let's Connect 共同養育 支援者支援

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、児童養護施設や乳児院などの子どもを養育する社会的養護施設において子ども虐待や不適切養育などによりアタッチメントとトラウマの課題を抱える子どもを共同養育していくために必要な、職員集団および組織のあり方と養育を行う職員集団のチームワークを形成するための介入方法について検討することであった。

2. 研究の目的

職員個人や集団が組織風土から受ける影響について明らかにし、それとともに職員集団で子どもを養育していく際に必要なコミュニケーションとチームワークのあり方について検討することを旨とした。これらをふまえて、傷つきを抱えた子どもたちを養育するために必要な職員集団の形成方法および組織への介入方法について、コミュニティへのトラウマインフォームドケアを念頭におき、子どもの適切な養育とともに職員同士を支えあう共同養育チームの形成を目指した、組織風土の変革と包括的コンサルテーション介入を再構成することを目的とした。

3. 研究の方法

1. 職員集団で子どもを養育していく際に必要なコミュニケーションとチームワークのあり方について検討すると共に、職員個人や集団が組織風土から受ける影響を、ヒアリング及び文献調査により明らかにする。
2. トラウマインフォームドケアの観点から、傷つきを抱えた子どもたちを養育するために必要な職員集団の形成方法および組織への介入方法について、子どもの適切な養育とともに職員同士を支えあう共同養育チームの形成を目指した組織風土の変革と包括的コンサルテーション介入を、これまでの研究を元に再構成する。
3. 日本の児童養護施設における共同養育に関する理論整理と実態調査を行う。
4. アメリカ、コロラド大学ボルダー校の行動科学研究所が実施しているトラウマインフォームドケアである Let's Connect モデルに関する実態調査とプログラム習得を行う。
5. Let's Connect モデル日本への適用の検討と介入実践を行う。

4. 研究成果

本研究の目的は、児童養護施設や乳児院などの子どもを養育する社会的養護施設において子ども虐待や不適切養育などによりアタッチメントとトラウマの課題を抱える子どもを共同養育していくために必要な、職員集団および組織のあり方と養育を行う職員集団のチームワークを形成するための介入方法について検討することである。トラウマインフォームドケアの観点から、傷つきを抱えた子どもたちを養育するために必要な職員集団の形成方法および組織への介入方法について、子どもの適切な養育とともに職員同士を支えあう共同養育チームの形成を目指した組織風土の変革と包括的コンサルテーション介入を再構成することを目的に以下の通り研究を行った。

- (1) 子どもの養育に関する先行研究を整理し、共同養育と養育チームにおけるコミュニケーションのあり方とチームワーク形成に関する理論を抽出するために文献研究とフィールドワークによる実践を行った。チームワークを向上させる機能を持つものとして共有メンタルモデル (DeChurch & Mesmer-Magnus, 2010) に着目し、子どもの養育における共有メンタルモデルとして、養育者集団が子どもと関わるなかで自己に生じる感情や子どもに対する思いを養育者同士で共有しあうプロセスが共同養育者集団を形成していくことに貢献し、同時に養育者同士を支えあう機能を持つという仮説に基づき、児童養護施設における介入実践を行った。
- (2) アメリカのコロラド大学 Boulder 校に Research Scholar として赴任し、①トラウマインフォームドケアの実態調査と実践、日本への適用の検討、②アメリカ、コロラド大学 Boulder 校 Institute of Behavioral Science が実施しているトラウマインフォームドケアである Let's Connect プログラムに関する実態調査、③Let's Connect プログラムワークショップの受講と介入方法の習得、を行った。Let's Connect モデルとは、コミュニティを対象としたトラウマインフォームドケアであり、子どもへの具体的ななかかわりの技術を習得すると共に、支援者が子どもとの関わりの中で生じる自身の心的状態を内省し、子どもの理解を深め子どもとのつながりを構築、強化することにより、子どものトラウマケアを行っていく点に特徴がある。
- (3) 日本において介入実践を行うために、コロラド大学 Institute of Behavioral Science にて Dr. Fitzgerald の指導を受けた。
- (4) 日本への Let's Connect プログラム適用と実践に向けての準備として、日本における適用

の検討を行うと共に、実践のために必要なマニュアルと使用教材の日本語への翻訳を行った。

- (5) 日本の研究協力施設と実施に向けての介入準備として、介入実践に向けての計画を検討した。対象となる養育者と児童の選定や実施要領などについて検討した。
- (6) 他のエビデンスあるペアレンティングプログラムとの比較:介入施設に対して効果測定のために CARE や PCIT 等実証研究がされているペアレン ティングプログラムを導入し、効果測定のための準備を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 加藤尚子	4. 巻 69
2. 論文標題 児童養護施設における不適切な懲戒行動の防止に関する研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本社会事業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 115-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤尚子	4. 巻 15
2. 論文標題 社会的養護領域におけるトラウマインフォームドケア -Let ' s Connectプログラム導入に関する検討-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治大学心理社会学研究	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤尚子・藤岡孝志	4. 巻 66
2. 論文標題 しつけ(懲戒)と虐待の境界の認識に関する検討：フランスの懲戒行動に関する現状をふまえて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本社会事業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 137-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤尚子	4. 巻 202
2. 論文標題 待から子どもを守る 教師が必ず知っておきたいこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊教育法	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤尚子	4. 巻 74
2. 論文標題 子ども虐待と保育者の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 わかたけ	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤尚子	4. 巻 9
2. 論文標題 児童生徒虐待に 学校はどう向き合うか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズライブラリ	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 金沢吉展・沢宮容子, 加藤尚子他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 376
3. 書名 現代の臨床心理学5 臨床心理学と心の健康	

1. 著者名 勝又陽太郎, 内藤佳津雄, 藤岡孝志, 加藤尚子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 235
3. 書名 心理学と心理的支援	

1. 著者名 加藤尚子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メイト	5. 総ページ数 88
3. 書名 子どものSOSを見のがさない！保育者だからできることー「虐待」見極め&対応ブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------